

2025年度事業概況

2025年度は新型コロナの収束から3年目でしたが、にじの会では、ほぼコロナ前の事業運営に復帰した年でした。11月にスバル体育館でのスポーツ大会を再開し、3年ごとの文化行事も3月に三鷹市公会堂で劇団荒馬座の出演で開催しました。日中活動参観も大沢にじの里・にじアート・未来工房で再開しており、一泊や日帰りの旅行・にじの会まつり・ウォーキング大会・クリスマス会等のイベントも継続して実施し、利用者やご家族・地域の方々にも楽しんでいただきました。外形的には前に復帰になっていますが、内容的にはかなりの変化が起きています。6年間の時の経過とコロナでの活動の制約により、多くの利用者の方々の機能状態がかなり低下しており、高齢化と障害の重度化の影響が、にじの会でも顕著になりつつあります。

組織運営の面では、一昨年・昨年と連続して大幅な給与改定を行い職員の処遇改善を実施しましたが、2025年度も下期に給与の改定を実施することで、職員の定着が向上し、職員採用も順調に進められて、ほぼ要員が確保できています。数的には改善されていますが、質的にはまだ不十分な状態で不適切な支援や虐待認定などが指摘されており、今後の職員の育成とチームワークの改善が必要になっています。

法人の運営体制については、年度当初に3名の常務理事を選任し、日常の業務運営を担当する体制を開始しており、概ね順調に職務権限の委譲が進んでおります。今後、その定着を図っていく予定です。

業務効率化については、業務も標準化と省力化を進めることが不可欠です。ITを活用しての業務効率化と利用者支援でのIT活用を推進するため、DX担当者を2名選任し外部コンサルタントも導入して1月から重点的に取組を開始しています。

SDGsの取組では飛散防止断熱フィルムの貼付と可搬式の蓄電器と太陽光パネルの設置を全事業所で実施し、省エネと防災の向上を図っています。地域貢献事業では大沢地区高齢者買い物送迎支援事業「かわせみ」が実施1000回を超え11月に記念パーティを開催し継続して実施しています。大沢地区の子ども食堂も昨年1月から開始しており月1回60食の弁当配布を実施しています。他地区の子ども食堂への食事無償提供も3食堂に継続して実施しています。

以下に法人本部・施設全般・各事業の状況をご報告いたします。